



# 敬愛

校長 持田 晃

〒183-0027 府中市本町 4-16

☎ 042-361-9303

ホームページ <http://www.fuchu03c.fuchu-tokyo.ed.jp/>

## 「4月」という時

校長 持田 晃

“3月”は別れの時であり1年間の節目ですが、それは単なる別れではなく、次の新たな出会いに向けたステップであり、希望がその先にあります。私も学校が変わり、新しい環境で良い緊張感があります。

しかし、皆さんにとっても、私たちにとっても、新たな出会いの時である「4月」が過ぎました。あるはずの希望が、自由が奪われ、思うような進展がなく、時だけがこれまでと同じように過ぎていきます。本来ならば、新しい仲間と新しい関係を築き、学習や部活動、最初の大きな行事である運動会に向けて取り組んでいるところだと、カレンダーを見ると気づかされます。

それでも、学校の教育活動が通常どおりにできる日を待ち、秘めた希望の光を灯し続け、前向きに捉えていきましょう。それまでは、健康に留意し、家庭での学習を継続し、学校の再開まで準備をしていってください。また、このような状況の中で、医療関係に従事されている方をはじめ、我々の生活の基盤を支えてくれている配送、食品、収集などの業務に携わっている方への感謝も忘れないでいきましょう。

(右の写真は、4月の提出物・課題配布日の様子です。ルールが守られています。)

今月の学校だよりは、令和2年度学校経営計画を掲載します。スペースの関係で全文ではありませんが、学校ホームページにも掲載しています。

また、4月当初の経営計画のため、新型コロナウイルスの対応により、実施できなくなってしまう可能性がある内容も入っています。

文字が多くなり、すみません。ご理解ください。



### 令和2年度 府中市立府中第三中学校 学校経営計画

はじめに (学校経営方針)

中学校教育の使命は、生徒一人一人の潜在的な能力を引き出し伸ばしつつ、社会において自立的に生きる基礎を培い、社会の形成者として必要な資質を養うことにある。

各人が社会の変化を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら未来を切り開いていける力を身に付けさせることが必要となる。

そのため、府中市教育委員会及び東京都教育委員会の教育目標・基本方針に基づき、本校の教育目標の実現を図る。

<校訓>

「自他の敬愛」

<教育目標>

- (1) 自分を大切にし、他人を尊敬し、楽しい学園を作ろう (生活)
- (2) よく運動し、衛生に注意し健康な身体を作ろう (健康・安全)
- (3) よく勉強し、個性を伸ばし、役に立つ人間になろう (学習)
- (4) 勤労をよろこび、苦難にうち勝ち、正しく強く生きていこう (進路)

1 目指す学校

1 目指す生徒像 (教育目標)

- (1) 「自分を大切にし、他人を尊敬し、楽しい学園を作ろう (生活)」を受けて  
「励まし合い、支え合う生徒」 ← <自己理解・人間関係形成能力>

感謝と思いやりは、互いの存在を肯定的に受け止め、ともにかけがえのない人間であることの自覚から生まれる。

他者の良さは、具体的な発言や行動から理解を深めるものであり、自己をさらに高めるものである。そういった点で、生徒の良さや活躍を広めることや生徒の言動に感謝の気持ちを教職員が率先して表すこと、あいさつに加え一言言葉を交わすことで醸成していく。

- (2) 「よく運動し、衛生に注意し健康な身体を作ろう (健康・安全)」を受けて

「健康・安全に配慮できる生徒」 ← <セルフコントロール能力>

他者と自分の違いに気づき、健康面・安全面に配慮できることは、社会をとおして必要な技能である。また、違いが分かることは自分自身を知ることにもつながる。自己の特性を理解するとともに、さらに高めようとする姿勢を醸成する。

そのためには、健康であることが絶対条件となる。

- (3) 「よく勉強し、個性を伸ばし、役に立つ人間になろう (学習)」を受けて

「主体的に学ぶ生徒」 ← <課題設定・将来設計能力>

「自ら学ぶ」とは、自主的な学びはもとより、主体的な学びを指す。自主的は、なすべきことを人に言われなくて率先して行うこと。主体的は、なすべきことを自分の意志や判断で決めて行うことである。両者の違いは、自己決定の場の有無である。生徒が学習の対象を客観的に捉え、数ある選択肢の中から、自分なりの根拠に基づいて、決定しながら学ぶことである。日々の授業においても、こうした学びの場である思考・判断の場面を設定し、表現に結び付ける授業形態を実施していく。

- (4) 「勤労をよるこび、苦難にうち勝ち、正しく強く生きていこう (進路)」を受けて

「自己実現に努める生徒」 ← <社会参画能力>

生徒の自己実現の過程で大きな役割を果たすのが、夢や理想である。生徒の描く将来像に向けて教師が温かく受け止め、近づけるように励ましていく。

生徒の自己実現を支え続けるのは、「あせらず」「たゆまず」「おこたらず」の精神である。それを支える教師は、「はげまし」「みとめて」「あきらめない」ことを重視する。

## 2 目指す学校像

- (1) 生徒も教職員も互いに尊重する安心・安全な学校

人権尊重の精神を基盤とし、特別支援教育の視点を生かした教育実践を積み重ねていくことで、誰もが安心でき、互いに助け合える人としてのネットワークを強化する。

- (2) 生徒も教職員も学ぶ喜びと自信がもてる学校

生徒一人一人の自己実現を図るため、各教科で「力の付く授業」を実践し、確かな学力の定着及び伸長を図る。さらに、教師が常に授業改善の意識をもち、生徒が主体的に学習に取り組み、よりよい人間関係が築けるよう「学びに向かう力、人間性等」を育成し、生徒の自尊感情・自己肯定感を高める。

- (3) 生徒も教職員も「チーム三中」としての力を生かし、主体的に課題を解決する学校

学校を取り巻く諸課題に対応するため、保護者、地域、関係団体等との協働体制を推進し、「チーム三中」としての対応力を高める。

そのためには、教職員間での「目標への意思統合」と「コミュニケーションの活性化」を図り、「目標共有」、「役割分担」、「調整・統合」の三つの機能を重視した組織運営力を高める。

- (4) 生徒も教職員も地域から信頼される学校

創立60周年という記念すべき年として、学校の教育活動を積極的に発信するとともに、生徒、保護者、地域、教職員が共に支え合い、地域が誇る学校を目指す。

## II 令和2年度の取組目標と方策

### 1 教育活動の目標と方策 (1年間の学校の教育活動全般についての指針)

- (1) 学力・体力向上の取組

各種学力調査の定量的データによる分析と系統的な指導、教科の特性に応じた指導、数学・英語における習熟度別少数人数指導による個に応じた指導をさらに充実する。

- (2) チームとしての学校力の向上

地域と連携した取組の充実を図るとともに、地域と協働した教育活動の実践により、コミュニケーションの活性化を図る。また、創立60周年記念行事をとおして協働体制をさらに高める。

- (3) 保護者・地域との連携

地域に根ざし信頼される学校の実現を目指し、地域、PTA等と連携したボランティア活動を推進し、オリンピック・パラリンピック教育としてのボランティアマインドの醸成を図る。

2 重点目標と方策

	<重点目標>	<方策>
学校運営	<b>&lt;特別支援教育の推進&gt;</b> ○特別支援教室拠点校としての利点を活かし、特別支援教育の理解を深め、指導力や専門性の向上を図る。	①特別支援コーディネーターを中心に、PDCAサイクルに基づき、特別支援校内委員会の機能を活かし、通常の学級における配慮の必要な生徒への支援について組織的に取り組み、共通理解・共通実践を図る。 ②特別支援教室拠点校としての利点を活かし、校内研修をさらに充実させ、特別支援教育の視点に基づく環境整備や授業改善を進め、ユニバーサルデザイン化を推進する。 ③個別指導計画や学校生活支援シートの活用を通して、「情報の共有化と支援の共通化」を図るとともに、巡回校との連携を強化し、生活上、学習上の困難の改善に努める。
	<b>&lt;地域と協働する学校づくりと小中連携一貫教育の充実&gt;</b> ○地域・保護者との連携を図った府中版コミュニティ・スクールを推進し、「顔が見える関係」「立ち話ができる関係」の連携をとおして、創立60周年行事を実施する。 ○情報発信を積極的に行い、「生徒活動の見える化」を進め、「地域が誇れる三中」を目指す。 ○三中学区（矢崎小・南町小・府中三小）との小中連携を基盤とし、目指す子ども像の共有・実践を図り、キャリア教育の充実を図る。	①学校評価を生かした学校改善に向け、スクールコミュニティ協議会や地域コーディネーターを活用して、本校の教育活動への支援・協力体制の進化を図り、創立60周年記念行事を実施する。また、地域朝礼を継続し、生徒の「地域の一人としての自覚」を深める。 ②学校だより、学年だよりやホームページ等を活用して、情報提供を積極的に行うとともに、学校PTAとの連携を強化する。保護者・地域・学校が協働するボランティア活動を推進する。 ③三中学区の目指す子ども像を念頭に、年3回「小中連携の日」の教科別分科会を設定し、「学び」と「育ち」における小中連携を図る。府中三小とは「生活指導協力推進員」制度を活用して、連携を強化する。学区内小学校からの進級率を維持する。
学習指導	<b>&lt;確かな学力の向上&gt;</b> ○全教科において、「主体的に学び、自ら考え、個の確立」を目指した授業改善を推進する。 ○個に応じた指導を充実させる。 ○「自立した学び」に向けて、自学・自習できるよう、家庭学習の習慣化を推進する。また、指導と評価の一体化を図る。 ○読書に関する関心を高め、図書活動を充実させる。	①新学習指導要領の主旨を踏まえ、三中生に身につけさせたい力を全教科において実践し、授業改善を図る。また、法教育、消費者教育の充実を図る。 ②数学科・英語科において、習熟度別少人数指導を実施するとともに、数学・理科においては市学習支援員を活用した指導を展開する。 ③生徒の授業アンケートの肯定度を80%以上とする。特に「個の確立」を図るため、「考える」「表現する」授業改善に努める。 ④自立した学びに向け、「放課後学習教室」を活用するとともに、家庭学習の習慣化を図る。また、新学習指導要領の主旨を踏まえた評価に関する研修会を実施し、指導と評価の一体化を図り、次年度の全面実施に備える。 ⑤言語活動の一環として、年間を通して朝読書を実施する。また図書室支援員等を活用して、読書習慣の質を高める。
	<b>&lt;健康な心と体の育成&gt;</b> ○保健体育科の授業や運動会などの体育的行事、部活動を通して、健康教育や体力向上に学校全体で取り組む。	①保健体育科の授業を中心に、体力向上の手立てを工夫し、全種目において都標準を上回ることを目標とする。 ②コーチング・トレーニング拠点校等を活用し、随時外部講師を招聘し、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を育てる。
	<b>&lt;道徳教育を要とした学校づくり&gt;</b> ○「特別の教科 道徳」の時間を要として、生き方を深く考える道徳教育の充実を図り、「生命の尊さ」「思いやり、感謝」を重点項目とした指導を展開する。	①これまでの実践研究の成果を生かし、人権尊重の精神の基盤である「生命の尊さ」「思いやり、感謝」を重点項目とし、生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲や態度を育てる「特別教科 道徳」の時間の充実・改善を図る。 ②ローテーション道徳の実践を通して、全教員で取り組むことで、教科指導にも生かす。
生活指導・進路指導	<b>&lt;伝統ある校風を高める生活指導&gt;</b> ○学校生活の充実に向けて「身だしなみ」「清掃」「挨拶」「時間」に重点を置き、本校の伝統を受け継ぎ、校風を高め、授業を大切にす指導を充実させる。 ○学級・学年を超えた指導・支援体制を確立する。 ○保護者や関係機関と連携し、学校不適應の指導・対応の充実を図る。	①「みそあじ+じ」をスローガンに、「時間」「話を聞く態度」を重点的に、当たり前前を当たり前前にやり続けられる基本的な指導を全教職員で徹底する。基本的な生活習慣の確立について、肯定的評価を80%以上とする。 ②いじめは、「いつでも、だれにでも」起こり得ることとしての認識を新たにし、早期発見と早期対応に努め、いじめの根絶を目指す。 ③受容的・共感的な生徒理解を基盤とした教育相談活動を充実させる。1年生のスクールカウンセラー面接は個別面接とする。組織的に不登校の解消に努め、不登校出現率を3%以下とする。
	<b>&lt;キャリア教育を中心とした学校づくりとキャリアマネジメントの充実&gt;</b> ○生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度の育成を図る。 ○生徒一人一人の夢や目標の実現と社会的な役割や責任に対する自覚を育てる。そのため、多様な教育課題の統合を図る。	①生徒一人一人が自己理解を深め、自己の将来の夢や希望の実現に向け主体的に進路を選択する力を育成する。3年生の第一志望進路実現率を80%以上とする。 ②社会性の確立や自立に向け、地域連携、小・中連携、一貫教育、各種行事の振り返りをキャリアパスポートの活用を通して進める。
特別活動・その他	<b>&lt;思いやりを大切にしたい望ましい人間関係の構築&gt;</b> ○一人一人の個性や能力を活かし、集団の一員としての存在感が味わえる指導を行い、帰属意識を高める。 ○人とかかわりや、協力、協働の経験を豊かにすることで、自分を大切に、他者も大切に人権を尊重し合える望ましい人間関係を育成する。	①学級活動や委員会活動等において、意図的・計画的に指導し、生徒会活動の充実を図る。また、集団活動を重視し、自己肯定感を育成する。「学校が楽しい」という生徒を80%以上とする。 ②正義の通る雰囲気や生徒集団を育成するため、学級活動や生徒会活動等を活用し、社会や学校のルールを遵守する指導を全校体制で徹底して共通実践する。
	<b>&lt;オリンピック・パラリンピック教育&gt;</b> ○すべての教育活動において取り組み、国際理解を深め、自ら進んで平和的な社会に貢献する人材を育成する。	①国際理解や福祉、伝統文化の総合的な学習の時間等を通して、外部人材との交流を積極的に図り、オリンピック・パラリンピック教育の充実を図る。 ②交流ホールを活用し、各教科の学習成果物の展示や和太鼓部の演奏発表会、我が国の年中行事等の紹介等を通して、自国の文化や伝統を知り、それを大切にする心を育み、潤いと安らぎのある教育環境を創る。 ③防災教育（地域防災スクール、普通救命講習など）を通して、地域の一員としての自覚や社会に貢献する意識を高める。

# 私の「心に残ったあの一言」

道徳の窓  
NO22

## 「経験して学べ」

教諭 宮岡 美樹子

今まで色々な人に出会い、迷ったとき、辛いとき、不安なときなど自分にはどうにもできないような場面でたくさんの言葉をもらってきました。そのたびに、言葉によって助けられました。その中でも、体育科教員としての一步を踏み出す言葉をもらいました。

私は、三中にきて8年が経ちます。教員になって初めて務めるのが三中でした。緊張と忙しさが最初の記憶がほとんどありません。体育科の先生は、すごい人たちばかりで、ついていくのに必死な毎日でした。何でもスムーズにこなしている先輩を見ていると「こんなことも分からないのか」と思われてしまうのではと、何も聞けなくなっていました。また、自分に力がないことは一目瞭然で、少しでも早く追いつこうと必死になっても追いつくことのできない自分にずっと苛立ち、どうにもできない気持ちでいっぱいでした。

3年目の時です。行事の中心として運動会実行委員長をすることになりました。本当は私ではなく、先輩の先生がやるはずでした。正直、やるのが怖かったです。中心になりやるということは、自分が指示を出し、だれよりも先回りして行動していかなくてはなりません。人生で初めて、楽しみだった行事が憂鬱になっていきました。自分がうまくできないのは、誰から見ても分かることで、何で自分がやらなきゃいけないのだと不安しかありませんでした。その時に、体育の先輩に言われました。「見てないで、経験して学べ」と。そして、ただ経験を積んで学べというのではなく、「責任はとるから、お前はとにかくやって経験しろ」と言ってくれました。後押ししてくれる先輩の言葉が自分を変えてくれました。

2年間先輩たちから多くのことを学び、目に焼き付けてきたことでも、実際にやるとなると全くの別物でした。思うようにことが運ばず、あたふたする日々。大事な書類が抜け、連絡がきちんと伝わらない。多くの失敗をしました。でも、経験だ。この経験を無駄にははいけないと思いながらやり続けました。見て学ぶことより、はるかに多くのことを学ぶことができました。見ているだけでは気付けないことも、気付くことができました。様々な所でカバーしてくれた先輩のおかげで行事を無事に終えることができ、達成感でいっぱいだったことを今でも覚えています。そして、経験したことで、自分に自信がもてるようになり、何事も前向きになっていきました。分からなくても素直に認め、そこからまた頑張っていこうとも思えるようになっていました。

私には経験が一番必要だと分かってくれて、私に任せてくれたことに感謝しています。自身の仕事を増やしてまで、自分に経験を積ませ、どんな時も後押ししてくれたことに感謝しています。

私は、経験することを大切にしています。そして、自分のことより人を優先し、誰かのために力を貸せるそんな人になりたいと思っています。

### ☆府中市学校情報配信サービスの登録について（メール配信サービス）

先日お配りしましたメール配信のご登録をお願いいたします。

※学年繰り上げの自動更新となっておりますので、新1年生と2・3年生で登録されていないご家庭につきましては登録をお願いいたします。今年度より、緊急連絡網の使用は中止することを検討しております。全員が登録をされるようお願いいたします。

### ☆学校ホームページの確認をお願いいたします

新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休業期間は、学校ホームページによるお知らせで、登校日等の変更連絡を行っております。不定期とはなりますが、ご確認をお願いいたします。

### ☆臨時休業期間中の学習支援コンテンツについて

学習支援コンテンツについて、学校ホームページに掲載してあります。ご活用ください。